

「こどもお薬教室」を開催して

—未来の薬剤師を育てるために—

石川県 てまり薬局
○橋本 昌子、 藤田 由

【はじめに】てまり薬局では開局当初から地域に根差した薬局を目指し、さまざまな活動を行ってきた。そのひとつに「こどもお薬教室」がある。薬局とはどのような場所で薬剤師は何をしているのか、こども達に薬剤師という仕事の大切さや魅力を感じてもらうために、2008年4月より開催している。今回は、この「こどもお薬教室」について報告する。

【方法】対象は、開催時間との関係から小学校低学年（1年～3年）を中心とし、夏休み中には高学年（4年～6年）対象も1回開催した。1グループを5名前後とし、講義と調剤体験を行った。

①講義：日本薬剤師会HPよりダウンロードした小学生向けスライドを参考にし、薬の形、飲み方、保管方法、副作用、かかりつけ薬局、お薬手帳についてなど基本的な事を一通り学ぶ。（約30分）②調剤体験：実際に調剤室を見学した後、マーブルチョコやラムネ等のお菓子を錠剤に見立て、模擬処方せんに基づいた調剤体験（調剤・分包）、薬袋作成。（約30分）③感想文記載。

【結果および考察】第1回2008年4月10名参加。第2回2008年8月20名。第3回2008年10月4名。第4回以降は月1回の定例とした。2009年4月5名、第5回5名、第6回5名、第7回5名、第8回6名、第9回6名、第10回4名。

小学1年生から5年生まで計57名が参加した。（内4人は2回参加）

感想文より）本物の薬を見ることができてよかった。機械で包むのが面白かった。たくさん薬があつてびっくりした。また来たい。中には薬剤師を目指したいと言う子もあり、薬局や薬剤師の仕事に関心を持てたのではないだろうか。

参加したこどもの家族からは、とても喜んでいて、分包したお菓子を朝、昼と順番に食べていた。こどもが病院や薬を嫌がらなくなった。次回の開催が決まったら知らせてほしい等の声が聞かれた。これによりこども達がこの教室のことを家族に話をし、本人だけでなく家族にも薬局・薬剤師の存在を身近に感じてもらう結果につながったと思う。

1年目は試行錯誤で開催することだけを目的としたが、2年目は内容を検討しながら下準備をし、終了後は反省会を行い次回につなげた。例えば、参加メンバーによって、活発に意見を出すグループもあれば、おとなしいグループもあり、それに左右されてスタッフの対応も一定しなかったが、プログラムを作成し担当者をあらかじめ決めておくことで、流れに沿って開催できるようになった。また時間を気にするあまり、単なる流れ作業となり、結局何を学んでもらったのかあいまいだったが、最後に感想文を書いてもらう事で、子供たちに振り返ってもらい、まとめとすることができた。感想文からは、何を得たか、知ることができるようになった。

2回参加したグループでは、1回目に比べ、スライド学習時の問いかけに対する答えが、より具体的でしっかりしていた事から、複数回の参加が望ましいと思われる。

【まとめ】「こどもお薬教室」を開催することにより、地域のこども達とふれあうことができた。こども達やその家族に薬局の役割と薬剤師の仕事について啓蒙するよい機会になったと思う。これまでは小学生対象だったが、今後は中高生を対象にした教室も開催していきたい。